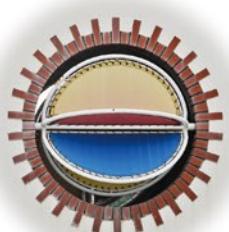
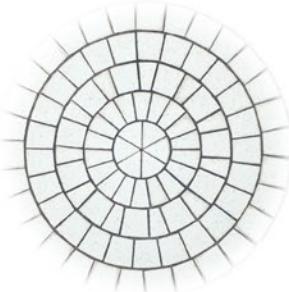
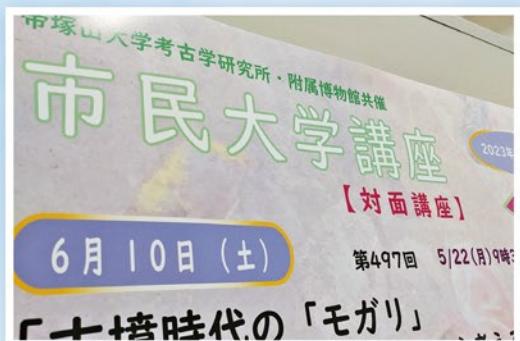


帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



公開講座も
「オンライン」から「対面」へ
(大学)

パーテーションが撤去された
学生ホールで過ごす学生
(大学)



新型コロナウイルス感染症の
扱いの変更を告げる掲示
(大学)

より充実した「学び」を—。

は、5月8日をもって感染症法上の分類が「5類」に移行されました。これまでのため、一定の制約を受けつつも、「学びを止めない」との方針のもと、最大限育活動を行ってまいりました。

対策を励行するとともに、コロナ禍の中で生み出されてきたさまざまな教育実践の学びの充実を進めてまいります。



学校間の教育連携も再開
(小学校)



学校間の教育連携も再開
(幼稚園)

Contents *T-time* Vol.15

特 集 P 03

奥村 由美子 帝塚山大学学長

小林 健 帝塚山中学校・高等学校校長 就任インタビュー

大 学 P 07

文学部が「なら歴史芸術文化村」開村1周年記念イベントに協力しました

TOPICS

食物栄養学科 ピザバトルに参戦

教育学部 認定絵本養成講座スタート

法学部 小学校で交通安全教室を開催



パーテーションの撤去作業
(大学)

中学校・高等学校 P 09

人権学習の成果を奈良市長、奈良県こども・女性局長にプレゼンしました

TOPICS

2023年度「田んぼプロジェクト」

性の多様性についての研修会

中学校生徒会リーダー研修会

JNOメンバーとベルリンフィルハーモニー管弦楽団員が弦楽部指導に来訪

英検1級に見事合格



小学校 P 11

大学生による交通安全教室が開催されました

TOPICS

「高学年入学式」を挙行

1年生と2年生の交流会を実施

小学校にパッカー車がやってきた

学びのサポート役としてのAIの活用(入学説明会)

幼稚園 P 13

和の心を学びます～茶道にチャレンジ

TOPICS

いちごつみ

交通安全教室

体験保育

七夕きらきらゼリーづくり

・教育連携 P 15

・同窓会 P 17

・お知らせ P 17

※「活躍する卒業生 T-voice」はお休みしました

今後も、

新型コロナウイルス感染症

各学校園とも、感染拡大防止

の効果をあげられるよう教

移行後、基本的な感染防止

の工夫を生かすなどし、一層



多数の保護者が観覧されるなかでの
シン・ソーラン「演舞」(高校)

T-time (第15号) 表紙

キャンパス内の「まるい」ものを集めました

- ①幼稚園門扉(学園前キャンパス)
- ②ハートの広場(学園前キャンパス)
- ③6号館2階(東生駒キャンパス)
- ④小学校校舎3階階段手すり(学園前キャンパス)
- ⑤18号館1階(学園前キャンパス)
- ⑥6号館「円形校舎の標」(学園前キャンパス)
- ⑦10号館1階(学園前キャンパス)
- ⑧蓮華文軒丸瓦(朝鮮半島・高句麗)
(大学附属博物館蔵)(東生駒キャンパス)
- ⑨バス停横案内(東生駒キャンパス)
- ⑩14号館地下1階食堂(学園前キャンパス)
- ⑪学園講堂2階入口(学園前キャンパス)
- ⑫人の和広場モニュメント(学園前キャンパス)
- ⑬幼稚園「塔屋」(学園前キャンパス)
- ⑭小学校体育館(学園前キャンパス)
- ⑮考古学研究所・附属博物館付近道路標識
(東生駒キャンパス)

UD FONT

就任インタビュー

令和5年4月、帝塚山大学学長に奥村由美子教授が、帝塚山中学校・高等学校校長に小林健教諭が、それぞれ就任しました。就任にあたっての抱負、また、学校の現況や特色、今後の学校運営方針等について、お話を伺いました。



帝塚山大学 奥村 由美子 学長

学長に就任されてのお気持ちをお聞かせください。

本誌をご覧いただいた皆様にひとことご挨拶申し上げます。この4月より大学学長を拝命しました奥村由美子です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学では、新体制で新年度を開始し、4月1日には609人の新入生を迎えることができました。5月8日以降は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行したことを受け、3年あまり続いた対応がひとつの節目を越え、5月14日には帝塚山大学恒例の新入生歓迎行事である「あかね祭」を久々に

全て対面で開催することができました。コロナ禍による制限が多い中で、在学生がオンライン配信や対面実施と組み合わせたハイブリッド型等、感染防止に配慮した初めての試みによって何とか開催を続けてくれ、今年度はようやくその努力が実りました。新入生が、在学生や教職員との交流を楽しむ姿に安堵するとともに、言葉ではあらわせない感概を覚えました。

これまで私は、教員として、また、学部長、副学長として、教育や関連部署と連携しての諸業務に取り組んできました。学長に就任してからは、学生の前向きな姿勢、父母等の皆様のご理解とご協力、教職員による大学全体の多様な取り組み、学外諸機関との広く、多角的な連携の中で本学への温かいご支

援とご期待をいただいていること等への認識を、より一層深めています。

そのような中、早くも無事に3か月が経ち、皆様への感謝とともに、今後に向けてさらには、気持ちを引き締めているところです。

帝塚山大学の強みや魅力について教えていただけますか。

最近は、他大学の取り組みを見聞きすることが以前よりも増えました。そして、「帝塚山大学の強み、魅力は何だろうか」といつも考え、様々な角度から本学について眺めています。

このようなことを聞きました。ある教員が他大学から本学に着任された教員に、学生への指導方針や具体的な方法について説明する中で、「ここまで丁寧に指導するのですか」と驚かれたとのことです。また、教育懇談会に参加された父母等からは、予想しておられた以上の「面倒見の良さ」を感じていただき、そのことをもっと広報すべきではないかとういうようなご意見もいただきました。私自身も、本学に着任した時に「温かみのある大学だな」と感じましたが、12年目を迎えた今もその思いはかわりませんし、日頃の様々な場面での教職員による学生対応からも「面倒見の良さ」を実感しています。

とくに、教職員と学生の距離が近く、しっかりと向き合い、丁寧にかかわっていることは

何よりの強み、魅力であり、本学だからこそできる」とと自信を持って言えます。そして、「本物を知る」「体験する」とを学内外で実践できていることも、大きな強みであり魅力だと思思います。残念ながらこのコロナ禍では、本学が得意とする、直接のきめ細やかなかかわりによる教育や学生支援を從来通りには行えず、さらに学生にどつては、現場で実際に体験するという機会も奪われました。しかし、それと同時に、以前から備えていた本学独自のe-learningシステムであるTALES (Tezukayama Active Learning Education Square)がようやく活用されました。そのおかげで、オンライン教育は充実し、さらに対面教育が復活できた現在では、コロナ禍での経験をふまえてのより柔軟な教育体制を組めるようになりました。今後はさらに、本学の強み、魅力といえる教育体制を整備、強化してまいります。

学長としてこれからどのようなことに取り組んでいかれますか。

本学の役割は、「主役」であり、「宝」である学生の皆さんとの資質を磨いて、社会に貢献できる優れた人材として送り出すことです。この責任のもと、「時代を生き抜く力」と「時代の変化に対応できる力」を備えた人材の育成を重点目標に掲げ、その実現のために「実学の帝塚山大学」を標榜・実践しています。

このような目標の達成に向けて、大學では教職員の連携を強化して、より一層細やかな教育、学生支援に取り組みます。実はこれまで、本学ならではのとても優れた取り組みを積み重ねているのですが、本学の教職員にとっては当たり前のこととして認識され、外部に十分に発信しきれていないように感じています。

改めて、本学の教育や学生支援について謙虚に見直し、魅力ある教育・学生支援の体制をつくり、取り組みの成績をステークホルダーの皆さんにわかりやすく発信することと、そして改善すべき課題には、速やかに向き合うことを進めてまいります。

来年は開学60周年を迎えます。また、帝塚山大学初の女性学長といふことですが。



入学式で式辞を述べる奥村学長（4月1日）

本学が、2024年度に開学60周年を迎えることを考えますと、これまで

約35000人の卒業生が巣立つてくれたことを心より嬉しく、誇りに思いました。そこには多くの先人の多大な尽力があつたことに感謝の念がたえません。あわせて、帝塚山大学の持ち味を大切にしつつ、求められ続ける大学であるために、いかに発展させていくべきかという大きな使命を担つていることも重く受けとめています。

また、学長就任に際して、「帝塚山大学初の女性学長」として大きな期待をお寄せいただいていることをとても光栄に思っています。思い起こしますと、私の通った小学校、中学校、高等学校では、校長は女性でした。先生方はいつも落ち着いておられ、温かくかかるつてください、私はお話しさせていただくのをとても楽しみにしていました。知らず知らずのうちに、ロールモデルを得ていたのかもしれません。

私は、長い歴史をもつ本学が、これからさらに長い時を経ても、それぞれの学生にとっていつも立ち戻れる場所であるように、「帝塚山大学で良かつた」と思い続けてもらえる大学づくりに誠実に努めてまいります。

これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後に、学生・ご家族等へのメッセージをお願いいたします。

おぐわい ゆみこ／関西学院大学 大学院文学研究科博士課程前期課程修了、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了、博士(医学)。平成24年4月帝塚山大学心理学部教授、平成28年4月心理学部長、令和3年4月副学長を経て、令和5年4月帝塚山大学学長就任。専門は老年心理学、臨床心理学。日本心理臨床学会、日本老年社会科学会、日本認知症学会、日本認知症ケア学会、日本精神医学会、日本老年用心理学学会、日本老年臨床心理学会等に所属。写真は愛犬のペーちゃん。



校長に就任されてのお気持ちをお聞かせください。



帝塚山中学校・帝塚山高等学校 小林 健 校長

私は、大学院修了後、本学園に採用され、20数年にわたり中学校高等学校の国語科の教育職員として勤めてまいりました。私が高校生の時に、いわゆる「バブル」が崩壊しました。それまでは長い好景気の中、国家も教育業界も順風満帆であったのだろうと思ひます。私が大学を卒業した頃からはキレイに「失われた20年」と重なります。子どもも緩やかに減り続け、私が本校に勤めてからでも、思い返せば数度、中高の募集の危機につながりかねない時期はあったように思います。この20年の推移は、尊敬する諸先輩のご指導による中高の発展の歴史であります。バブル崩壊以降の長く続く不況の中、幾多の自然災害や入試制度の改革を越えて、中長期的な視点を持ちながら我慢強く運営いただいてきたのだと、改めて感謝申し上げたいと思います。呼ばれ続けた少子化の具体的な危機が、迫つてまいりました。また労務的にも教職員の働き方が話題になりました。10年後に本校で働く先生方と学んでいる生徒たちに、諸先輩が紡いできましたこの帝塚山中学校高等学校をつないでいくことがかなうように伝統を畏れながらも変革を恐れることなく努めてまいりたいと思います。

学校の強み・魅力はどのようにころにあると思われますか。

このコロナ禍による休校が3年前にありました。集まるなどを自明とした学校教育は、危機を迎えるました。本校も例外ではありませんでした。ICTを活用した遠隔授業も、最先端の学校と比べると遅れを取りながらも学校を挙げて取り組むようにいたしました。不十分ではありながらも実践できたと思います。

一方で、我々は「学校」という場を見つめ直すことになりました。授業内容を配信出来れば、教育が成立するわけではない、という当たり前のことを、実践することで再確認できたからです。

本校が伝統的にこだわってきた、勉強だけでなく様々な体験・活動をすることができる、ということ。その「場」としての学校の貴重さが浮き彫りに



入学式で式辞を述べる小林校長（4月10日）

なったように思います。

先日教育実習生に「帝塚山ってどんな学校でしたか」と尋ねました。

「個性あふれる私たちを否定せずに、それぞれの夢や志望を応援してくれる学校」と答えてくれました。同内容は複数人からありました。

「一人一人を大切にする」は本校の精神です。最近卒業した生徒たちにも実感として伝わっていたのかと、嬉しくなる瞬間でした。

**お若くして校長に就任されました。
校長としてこれからどのようなこ
とに取り組んでいかれますか。**

教師の喜びは身近な生徒とのやり取りの中で、共に成長していくことがあります。教員生活を重ねていく中で、その楽しさや喜びがどんどん増していく中、図らずも若輩の身で、校長をすることになってしましました（笑）。新年度が始まるまでの数か月は、自分がどのようにことができるのか、問い合わせる日々であつたように思いました。まず生徒たちが主体的に活動し学び、自分の人生を選択していくける「学校」であることを今以上に推進していくたいと思います。それは本校の生徒たちの最も生き生きとした姿です。卒業生たちの活躍が証明してくれていることでもあります。

また「温故知新」という言葉があります。本校は伝統校であり、長く続いたものも、それ大事にしてき

たものもあります。その精神を次代に

つなげていくことが大切だと思っていります。一方で、守りつなぐとは、ただ現状維持することではありません。時代や状況に合わせて変化していくことも、つなぐためには必要です。私が何年この仕事を出来るのかはわかりませんが、諸先輩や卒業生が紡いできた「帝塚山」を次代の先生方や生徒たちに手渡していくことが、私に課せられたことだと感じています。

2027年度から高校が共学化す るのです。

男女併学というのは本校の特色の一つです。男子女子はホームルームのクラスは別々ですが、放課後の生徒会活動や学校行事は合同で行います。当初は言わば「成り行き」といった二面もあつたようですが、長年続けてきた中で見出した「良さ」が本校の個性の一つにもなっています。特に中学段階では集団として見たとき、男子と女子の精神面での発達段階の違いが顕著であると実感しています。その違いを「違い」と自覚して丁寧に指導することが多い」と自覚しています。その違いを「違えるのが併学の良さと言えます。精神的な発達段階が揃いだし高校生以上になると、むしろ男女でお互いに切磋琢磨することで活性化します。授業も高校入学後は男子と女子が一緒に受けける合併授業が増えてきます。

精神的な発達段階が整いだした高校段階で男女合併授業を増やし活性化する。男女併学を伝統とした本学が、10数年前に男子英数コースに「スーパー理系選抜クラス」、女子英数コースに「スーパー選抜クラス」を創設する少し前頃から、当初は恐る恐る始めたこの試みは正解だったと思います。もともと分けていた本校だからこそ、男女合併授業による切磋琢磨の効果が当たり前でなく、如実に感じられるようになってきました。高校3年生になると特に男女英数コースはホームルームこそ別々ですが、ほぼ合併授業が行われています。

職員室も高校職員室・中学職員室・男子職員室と大きく3つに分かれ、一体感の中ではありますが、それぞれ個性のある指導を行ってきました。が、ここ数年、高校3年生の学年団は高校職員室にまとめ、進路指導部と一丸となつて指導するようにしてきました。昨年度は国公立医学部医学科に29名（内19名が現役）が合格してくれました。本校として過去最高の実績となつています。

一方で、伝統の中学段階での男女併学の有効さへのこだわりは外したくない。そこで本学としては、伝統を継承しながら次代を拓いていくべく、2027年度つまり、現在小学校6年生の児童の皆さんが高校1年生として入学する年より、随時高校を共学化することにいたしました。2027年度以降も、中学の男女併学制は維持いたします。

このことにより、中学段階は男女併

化する。男女併学を伝統とした本学が、10数年前に男子英数コースに「スーパー理系選抜クラス」、女子英数コースに「スーパー選抜クラス」を創設する少し前頃から、当初は恐る恐る始めたこの試みは正解だったと思います。もともと分けていた本校だからこそ、男女合併授業による切磋琢磨の効果が当たり前でなく、如実に感じられるようになつてきました。高校3年生になると特に男女英数コースはホームルームこそ別々ですが、ほぼ合併授業が行われています。

本校の最大の魅力は生徒諸君の姿にあらわれていると思っています。結果を恐れず行動していく、正解のない時代だからこそ、主体的に学ぶ力が必要になります。人生でもっとも多感なこの3年間・6年間を、帝塚山で出会った仲間と共に切磋琢磨しながら思う存分に過ごしてほしいと思います。どんなことでもかまいません。夢中になつて取り組んでみてください。その経験こそが将来、自分の人生を主体的につかんでいくための最強のエンジンとなります。保護者の方々にもそんな姿を応援してあげてほしいと思います。

本校の卒業生が、帝塚山で培った力で、次代の諸問題を解決していく。そんな未来を期待してやみません。



5月20日

文学部が「なら歴史芸術文化村」開村1周年記念イベントに協力しました



聴講者に企画展示の説明をする学生

スケッチは、福住町で生まれ育った永井清繁さん（1905-1999）が明治末期から昭和初期を中心に行なった、正月や盆、祭りをはじめとした伝統行事など昔のくらしを温かい筆致で丁寧に表現したもので、民俗学を専門とする文学部高田照世教授が長らく研究対象としています。5月20日には、この展示企画を受け、「奈良山里の民俗文化～福住の生活画より」と題し

文化財の修復や展示、芸術文化の体験等を通じ、歴史や食、農業など、奈良県が誇る文化に触れることができる「なら歴史芸術文化村」（天理市）が開村1周年を迎え、記念展「山辺の道」が5月下旬まで開催されました。

同催しでは、帝塚山大学奈良学総合文化研究所が所蔵する「山陵図」が公開されるほか、文化村が立地する天理市にある「福住町」の昔のくらしを鮮明に描いたスケッチを展示するなど、大学も全面的に協力しました。

スケッチは、福住町で生まれ育った永井清繁さん（1905-1999）が明治末期から昭和初期を中心に行なった、正月や盆、祭りをはじめとした伝統行事など昔のくらしを温かい筆致で丁寧に表現したもので、民俗学を専門とする文学部高田照世教授が長らく研究対象としています。5月20日には、この展示企画を受け、「奈良山里の民俗文化～福住の生活画より」と題し

別会場では、パネル化されたスケッチ約20点が展示されました（写真2）。

「永井さん」の生活画から推しの1枚を選んで「みた」とのテーマのとおり、文学部の学生がイチ推しの作品を選んだもので、スケッチに描かれた民具を懐かしそうに見るご年配の方に学生が寄り添い、当時のくらしについて語り合う様子が随所に見られました。展示パネルの制作や作品解説の準備にあつた学生たちは日頃の学びの成果を確認するだけでなく、地域の方々との交流を深めるなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。



展示コーナーにも多くの来場者がありました

現代生活学部食物栄養学科の学生が「大和丸なす」を使ってピザバトルに参戦

現代生活学部食物栄養学科の学生が6月3日・4日開催の「4大学対抗ピザバトル」(会場:イオン大和郡山店(大和郡山市))に参加しました。4大学とは、奈良県内の管理栄養士養成課程のある帝塚山大学、奈良女子大学、近畿大学、畿央大学。同課程に在籍する学生で構成される食育ボランティアサークル「ヘルスチーム菜良」は、食・健康・栄養に関するさまざまな活動を展開しており、今回のピザバトルも、同店で行われた「魅力再発見!大和郡山フェア」の一環として、大和郡山市の特産品である「大和丸なす」を用いたレシピを考案し、普及や消費拡大をめざすことを目的に開催されました。

ピザバトルは、コロナ禍で開催を見送った年もありましたが、本学は連続して出場しています。今回提案したのは、「大和丸なすのクラムチャウダー風ピツツア」。大きく輪切りにした大和丸なすはもちろん、ズッキーニやパプリカなどの野菜やあさり、ほたて、エビ、イカといった魚介類をふんだんに使った一品。現代生活学部食物栄養学科岩橋明子教授の指導のもと、検討を重ねて、レシピを完成させました。暑



「大和丸なすのクラムチャウダー風ピツツア」をおすすめ



ラジオの公開生放送でレシピをプレゼン



ピザの販売に奮闘した丸谷香奈さん(写真右)と岩切瑠衣さん

法学部の学生が小学校1年生を対象に交通安全教室を開催しました

(5月29日)

法学部のアドバンスクラスの学生8名が、帝塚山小学校を訪問。1年生を対象に交通安全教室を行いました。単なる講演ではなく、スライドを使ったクイズ、信号や道路に見立てた「横断」の練習、さらに、交差点での不注意が招く危険に関する寸劇など、もりだくさんのプログラムでした。

※詳しくは「小学校」のページをご覗ください。



絵本の魅力や可能性を伝え、読書活動を充実させる「認定絵本土」養成講座がスタートしました

(6月17日(取材日))

教育学部は、絵本専門士委員会(事務局:国立青少年教育振興機構)から「認定絵本土養成講座」の開設認定を受け、令和5年度から「認定絵本土」資格取得を希望する教育学部3年生を対象とした講座をスタートさせました。絵本に関する幅広い知識や技能等を活かして、教育現場や地域で絵本の魅力や可能性を伝え、読書活動を充実させていく役割を担う「認定絵本土」。委員会が定めるガイドラインに基づいた授業科目の単位を修得し、養成講座を修了すると「認定絵本土」の資格が得られます。

この日は、「絵本専門士」の資格を有する同学部徳永加代教授による授業が行われました。徳永教授は、保育や教育などにおいて子どもたちが絵本と出会う場面はとても重要なものであることを説明。これを受け、学生がグループになって大型絵本の読み聞かせを行うなど、充実した内容の授業が行われました。また、絵本を紹介するブックトークも認定絵本土には必要な技術。学生たちは読み手、聞き手を意識した提案方法を熱心に学んでいました。

同講座では、今後、現役で活躍する著名な絵本作家を迎えるなど、さらに充実した授業を行います。認定絵本土養成講座が認定されている機関は、全国でわずか49機関。関西圏の4年制大学では7大学のみです。同学部では、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の3資格をめざす学生が多いですが、さらなる資格を取得することにより一層教員としての資質・能力の幅を広げることができるとあり、3年生40名が意欲をもって講座を受けています。



学生と意見を交わしながら授業が進められます



絵本の読み聞かせをする学生たち



高校生が人権学習の成果を奈良市長や奈良県ごども・女性局長にプレゼンしました

▼3月10日・3月22日▼

3月10日、高校1年・2年(当時)の生徒13名が人権教育推進委員西川和宏教諭らの引率のもと奈良市役所を訪問。仲川げん奈良市長に人権学習の成果をプレゼンしました。

高校では、課題解決型の学習に積極的に取り組んでおり、人権学習についても、テーマを受けての課題の抽出、現状把握や解決に向けての調査・分析を行い、どのような方策がとれるか議論を重ねてきました。今回、学年のテーマに掲げられた「男女の性別による生きづらさ」(2年)について、外部での発表に向け有志2グループが、関係する情報の収集、資料の読み込み、アンケート調査を実施、さらに既に政策として実現されている事例の調査等、授業や定期考查、クラブ活動等と並行して準備を進めてきました。日程の都合で2年生の1グループが参加出来なくなり、当日は「在日外国人に関する諸問題」(1年)について、1年生2グループも発表することになりました。はじめは市長相手のプレゼンに身構えていた様子の生徒たちでしたが、1年生は住居、医療、教育、労働など日本で暮らす外国人が抱える問題の解決策を訴え(写真①)、2年生は社会で働く女性と同様、学生の「生理公欠」の必要性について、堂々と発表していました。

写真②
プレゼン後は、市長や市民部共生社会進課の職員の方々と意見交換を行いました。生徒からの積極的な質問に、市長は一つひとつ丁寧に回答してくださいました。加えて、今回提案したテーマにどうならない市政全般に及ぶ広い観点からお話をしてくださいました。(写真②)

続く3月22日には、高校2年(当時)の2グループ生徒5名が奈良県庁を訪問。谷垣

裕子 奈良県文化・教育・くらし創造部こども・女性局長はじめ県職員の方々に、「男女の性別による生きづらさ」を解消するためのアイデアをプレゼン形式で提案しました。先日の奈良市長に対する発表で無事成功をおさめたグループは、映写資料や技術にさらなる磨きをかけて、自信をもってプレゼンをしていました(写真③)。また、もうひとつのグループも教員を対象に行つたアンケート調査をベースに学校生活において性別の違いによって生じる諸問題をなくすための工夫や対策についてアピールしました。生徒たちの発表を受け、谷垣局長は、行政の現場における施策立案のプロセスに触れた。ながら、各種調査を適切に行うこと、また統計データが意味するものを正確に読み取るために求められる力や、政治や行政に対し興味・関心をもつ必要性について、お話ししてくださいました。(写真④)

今回、日常の生活を送るなかでじかに接することが極めて少ない市長や局長に対し、直接にプレゼンの機会を得た生徒たち。「身の回りに存在する問題を改めて認識した」「県や市の組織は意外と身近なところだと知った」「一歩踏み出して何かを解決したいと考えるようになった」との感想も寄せられました。自分たちの考え方をまとめ、伝えることの難しさや大切さ、自分たちが生活する社会においてどのような課題が生じているのか、また、その解決のためにどのように行動するべきか、市民として責任をもつて役割を果たす重要性について、理解をより一層深めることができました。

理想の“リーダー像”とは…中学校生徒会で「リーダー研修会」を実施しました (2月18日)

この日、中学校生徒会執行部(当時)と中学校の各クラスの総務委員(当時)らを中心約30人が集まり、リーダー研修会が行われました。「リーダーとは」をテーマに、中学校を牽引していくためのスキルを習得することを目的として実施されたもので、各グループには、毎年夏休みに実施している国際交流行事「エンパワーメントプログラム」に参加した高校1年生(当時)がまとめ役として入り、中高の連携も実現できました。

「リーダー」が備えるべき資質・能力、さらに、国際社会に目を転じ、世界で解決すべき課題、解決のためにリーダーがとるべき対応等についてグループごとに議論を深めました。生徒たちは持ち合わせている知識を存分に発揮し、人権問題や戦争、食糧問題といった課題をリストアップ。さまざまな意見を短時間のうちに整理し、結論を発表しました。食糧問題を掲げたグループは、一国で解決できず、時間がかかることから最優先で解決にあたるべきと主張していました。

研修会を終え、生徒たちは「リーダー像は様々で絶対の正解はない」「自分たちこそがリーダーだ」「話す能力、人に意見を伝える能力を伸ばしたい」「グループリーダーの姿を見て努力した」といった感想を述べ、リーダーシップの意識をさらに高めていました。

中学校生徒会顧問の降幡智世教諭は「初めての試みだったが、生徒たちが積極的に取り組んでくれてとても嬉しい。この経験を、学級活動や生徒会行事だけでなく様々な場面で活かしてくれることを期待している。」と語っていました。



グループワークに集中する生徒たち

JNOメンバーとベルリンフィルハーモニー管弦楽団のヴァイオラ奏者マルティン・シュテグナー氏来校 (5月31日)

世界的ピアニスト・指揮者である反田恭平氏が代表取締役社長を務めるジャパン・ナショナル・オーケストラ株式会社(Japan National Orchestra (JNO))と奈良県の協力で実施する「未来の演奏家育成事業」により、このたびJNOメンバー奏者の方々の中高弦楽部への指導が実現しました。

今回、指導にあたってくださったのは、東亮汰さん(ヴァイオリン)、長田健志さん(ヴァイオラ)、水野優也さん(チェロ)。そして、JNOのコンサートへのゲスト出演を控えた世界最高峰のオーケストラ ベルリンフィルハーモニー管弦楽団のヴァイオラ奏者マルティン・シュテグナーさんも指導に加わってくださいました。あこがれの奏者の来訪に部員たちの興奮も冷めやらぬ中、早速担当楽器ごとに分かれての練習が始まりました。時折ユーモアを織り交ぜながらリズムのとり方や音の響かせ方など、部員一人ひとりに語りかけるように指導していました。その後、一堂に会し、弦楽部顧問である寺島洋之教諭の指揮のもと、東さん、長田さん、水野さん、シュテグナーさんにも加わっていただきドヴォルザーク作曲の弦楽セレナーデの第3楽章を合奏しました。世界を舞台に活躍する奏者の方々との共演に部員たちは感極まった様子を見せていました。シュテグナーさんは「オーケストラでは自分の音だけでなく、まわりの音もしっかり聴き、自分の役割を理解して演奏することが大切」など心のこもったアドバイスが寄せられました。



シュテグナーさんから丁寧な指導がなされました



シュテグナーさん、JNOのメンバーと共に演奏

2023年度「田んぼプロジェクト」が始動! (6月18日)

国営飛鳥歴史公園(奈良県明日香村)内のキトラ古墳周辺地区「キトラの田んぼ」で「田んぼプロジェクト」に参加した生徒による田植えが行われました。このプロジェクトは、日本の原風景ともいえる飛鳥の地で、農家の方々との共同による稻作体験を通じ、生徒たちが「農」の観点から、伝統や文化、産業、社会を幅広く学び、理解することを目的とするもので活動は4年目を迎えていました。この日はプロジェクトをとりまとめる教諭のもと、中学1年から高校2年までの35名、特に入学したばかりの中学生1年の生徒が多く参加しました。

苗の植え付けは、本プロジェクトでお世話をなっている樽井一樹さんと瀬川健さんから指導を受けました。田んぼ独特の泥の感触に、当初は悲鳴をあげていた生徒でしたが、ぴんと張られたガイドロープに沿って、各班のリーダーのもとチームワークを發揮して、手際よく苗を植えていました。時折、トノサマガエルなどの水生生物も田んぼから顔を出し、生徒たちは飛鳥の自然を満喫していました。午後からは樽井さん、瀬川さんからの無農薬・無肥料での稻作の話など耳を傾け、除草、稻刈り、脱穀と続く次の工程に向けて、気を引き締めていました。



田植えの方法について説明を聞く生徒たち



田んぼの感触を味わいながら手際よく苗を植えていきます

「自分らしく生きるとは」性の多様性についての研修会を実施しました (6月21日)

6月21日、高校3年生を対象に性の多様性についての研修会を実施しました。講師として来校くださったのは合同会社虹縁(こより)代表の田崎智咲斗さん。トランスジェンダーであるご自身の経験をふまえ、「自分らしく生きるとは～性の多様性から考える自分らしさ～」をテーマに対話型の講演がなされました。

「自分らしさ」とは何か考えてみましょう。田崎さんの発言を受け、4人のグループごとに活発に意見交換がなされました。「LGBTQ」という言葉は近年よく聞かれるようになったが、それぞれ異なるものでひとくくりで扱うものではない。性の多様性には「答え」ではなく、今日意見交換をしてもらったように、丁寧に「問い合わせ」を繰り返していく必要がある」と今回取り上げたテーマについて、粘り強く取り組むようアドバイスがなされました。

最後に「性的マイノリティの方々を理解し、認め合うことよりも、まず尊重することが大事。目に見えにくいけれど身近に存在しているのだということを



グループ対話の様子



質疑応答の様子

想定できているか。今一度確認してほしい」と述べられ、100分に及び講演が終了しました。

快挙! 山田倫太郎さん(3年A組)が英検1級に見事合格!

山田倫太郎さん(3年A組)が見事英検1級に合格しました。しかもなんと高校2年での合格。快挙を達成しました。



幼い頃から洋画を見る習慣があった山田さん。フランクシナトラなど洋楽を聞くことも多いとあって、中学2年生で準1級に合格を果たしました。ただ1級となると難易度は一気に上がり、「覚えなければいけない単語、なかでも日常ではあまり使用しないものを多くマスターしなければならず苦労した」と話していました。ランゲージセンターではネイティブの先生と実践的なスピーチングの練習を重ねたとのこと。2次試験で与えられるテーマは簡単に答えられるものではないので、日頃からBBCのニュースを聴くなどして対策にあたったそうです。先生や友人、家族の励ましもあって、「合格発表は家族と一緒に見た」と話す山田さん。頗るとした中にも、高校2年時のスピーチコンテストで優勝するなど確実に成果を挙げていく姿は後輩たちの目標となっています。今後は英語圏への留学希望等のための英語力を測定するIELTSにも挑戦したいとのこと。将来の夢の実現に向けて一層意欲をもって励んでもらいたいと思います。山田さん、合格おめでとうございます!

【2022年度第3回 実用英語検定試験合格者】(学年・クラスは前年度のもの)

1 級：山田倫太郎(2-A)

準1級：柏田篤(2-A)、河野有里奈(2-J)

2 級：橋田隼汰(2-2)、西際愛佳(2-7)、玉村茜加理(2-9)、小倉清潤・内藤葵(2-10)、田村正樹・今北涉(3-1)、河内拓人(3-2)、出口有理紗・平珠廉・柿本怜奈(3-7)、和田沙喜(3-8)、坪井美奈・九十九月菜・山本茉莉・宮川奏羽・赤木杏維子・油座愛佳(3-9)、大森未来・中土侑咲・石河沙絵・新井恵子(3-10)



大学生による交通安全教室が開催されました

5月29日

5月29日

5月29日、入学間もない1年生を対象に交通安全教室が行われ、帝塚山大学法学院のアドバンスクラスの学生8名が体育館にやってきました。

「自動車用の信号」と歩行者用の信号とはどうが違うのでしょうか?信号機のイラストが映し出されたスライドを示しながら、大学生が質問をしました。こうしたクイズ形式のやりとりが進むと「次は自分が答えたい!」と言わんばかりに1年生は元気よく手を挙げていました。また、別の大学生からは、「歩行者用の信号機の青色がチカチカしたときは横断歩道を渡つてはいけません」と説明がありました。チカチカし始めたときの横断がどれくらい危険なのかを十分に理解してもらうために、体育館の床面に引かれた線を横断歩道に見立てて、実際に「横断」してみることにしました。「みんな!まず右を見て、左を見て。もう度右を見て。大丈夫と確認できたら大きく手を挙げて渡りましょう。みんなで道路を渡りかけた途端に信号の青がチカチカはじめました」「戻ったほうが早い場合は無理に渡つてしまわないで、いったん戻りましょう」。子どもたちは大学生の説明を注意深く聴き、またもとの位置に戻っていました。

次のプログラムは、壇上に何やら大道具が用意されています。「おねえさんが道を歩いていますが、待ち合わせに少し遅れそう」。これから短い劇が演じられるようです。急いでいたおねえさんは信号のない交差点にさしかかった時、十分に左右を注意していないので走ってきた自動車とぶつかってしまいました。なぜ自動車と衝突したのか、子どもたちはみんなで一生懸命考え、交通ルールを守る大切さをお互いに確認していました。

本教室は、同学部が令和4年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」(奈良県主催)において提案した政策「大学生が先生!大学生と学ぶ交通安全教室♪」をベースとして実施されたもの。令和4年8月に行われた公開コンペで見事上位6チームを選ばれたものの残念ながら入賞を逃した提案について、内容を新たに練り直し、ようやく実現に至った取り組みです。法学科長の笹邊将甫准教授の指導のもと、さまざまな創意工夫を凝らしてプログラムを完成させた学生たち。メンバーの白井亜友華(同学部4年)さんは「教室の開催は念願だったので実現できてとてもうれしい。小学1年生に対してどのように話せば集中して聞いてくれるか、準備にあまり時間がかけられないなかでかなり工夫した。今後もよりよいプログラムをつくっていきたい」と話していました。

小学生の死者重傷者数(2017年~2021年までの合計)は歩行中によるものが最多のこと(令和4年版交通安全白書)。今回の交通安全教室により、新1年生に交通ルールの大切さを一層理解してもらうことができました。笹邊将甫法学科長によると、今後、今回の教室に関するアンケート結果をもとに内容をさらに改善するとともに、近隣の小学校などへの展開も視野に入れているということです。

ごみはどのように収集されるのか(6月19日) ～小学校にパッカー車がやってきました

この日、小学校の玄関前にごみ収集車(パッカー車)がやってきました。SDGs学習の一環として、奈良市役所の協力により、「わたしたちのくらしとごみ」をテーマとした授業を行うこととなり、実際にパッカー車を見て、理解を深めます。

「実際にごみを入れてみましょう」。市役所の方の説明を受け、参加した4年生は安全のため手袋をして、作業者の立会いのもと注意深くごみを投げ入れていました。「パッカー車はたくさんのごみを収集できます。では集めたごみをどのように外に出すのか見てみましょう」。すると、車の後部が徐々にせりあがっていきます。先ほど入れたごみが次々と出てきました。

「それではパッカー車に乗ってみましょう」。子どもたちは代わる代わる運転席や助手席に「乗車」しました。「ここに操作ボタンがあります。車の後ろの様子もモニターから見ることができます」との説明があり、車の構造や作業の安全のための配慮について、知ることができました。

このあと児童は教室に戻り、ごみ問題などに関する説明を受け、自分たちが生活する社会環境の維持、SDGsとごみの関係について理解をより一層深めていました。

6月26日にも同市役所による「食品ロス」に関する授業が行われました。



パッカー車にごみを投げ入れる児童



パッcker車の運転席は思ったより高いです

学びのサポート役として「AI」を活用 ～第2回入学説明会を開催しました(6月17日)

本校の6年生は「人間と自然の共生」「環境問題」「科学技術」のいずれかに関連したテーマを自ら設定し、書籍やインターネットを用いた「調べ学習」を進め、学びの成果を卒業研究としてまとめています。今回その「調べ学習」に昨今大きな話題となっているAIを取り入れ、AIを活用した学びを推し進めることとしました。

この新たな方針は、6月17日開催の入学説明会の場で披露されました。その前提として、「AIの活用方法について、さまざまな場面で議論を呼んでいます。同時に今後の重要な社会の基盤となることは間違いない、これからの中学生たちはAIと共に社会を生きていかねばならない」と説明。また、「自然文の生成などさまざまな機能を有するAIであるが、中学生たちは情報の真偽を判断するのは難しい。AIに“答え”を提示させるのではなく、AIに中学生たちをサポートさせ、調べ学習の個別最適化を目指すといったように能動的な“AIを活用した調べ学習”へと発展させていきたい」と考え方が示されました。

「AIを活用した調べ学習」は、6年生が取り組む卒業研究で本年度より展開する予定とのことで、参加者は注意深く耳を傾けていました。

この日の入学説明会では、児童による発表に続き、教育内容、入学考査、アフタースクールについての説明、個別相談会、お子様の体験授業も実施されました。



「高学年入学式」が小学校体育館で執り行われました(4月11日)

入学が新型コロナウイルス感染拡大期に重なった新4年生は、対面での入学式が叶わず、入学後も制約された中で学校生活を送っていました。そのため、いよいよ高学年となるにあたって、「高学年入学式」と位置づけたお祝いの場を改めて設けることになりました。壇上には3年前に掲げる予定であった「第69回帝塚山小学校入学式」の看板も用意。先生や保護者の方々からのあたたかい拍手の中、「新入生」は緊張した面持ちで入場しました。野村至弘校長からは、コロナ禍にあっても学びを継続してきた子どもたちへのねぎらいの言葉、さらに支援にあたっていた保護者の方々に謝意が伝えられました。その後、担任の先生からクラスごとに名前が読み上げられると、元気よく返事をしていました。前方に準備されたスクリーンには児童一人ずつの写真とともに将来の夢や目標が映写される演出も。壇上に整列した「新入生」は先生から胸章リボンをつけてもらうとほっとした表情を浮かべていました。担任の先生からも、入学式を挙行できるよう会場設営にあたり、子どもたちを迎えるようぎりぎりまで調整を重ねたことなど、当時を振り返っての思いが述べられました。



胸章リボンをつけ、高学年への気持ちを新たにする4年生

「3年越し」の入学式を機に、高学年として過ごす学校生活がより充実したものとなるよう児童たちは決意を新たにしています。

「何色のアサガオが咲いたか教えてね」 1年生と2年生の交流会が行われました(6月1日)

この日、プレゼントを手にした2年生が1年生の教室を訪れるところ、大きな歓声があがりました。1年生と2年生の交流会です。

2年生は一人ひとり1年生の横に移動。「よろしくね」と声をかけられた1年生はとてもうれしそうな表情をしていました。「それでは渡してください」。先生の合図にしたがい、2年生は用意していたプレゼントを手渡しました。プレゼントしたのはアサガオの種。「アサガオの種渡し」は毎年、2年生から入学したばかりの1年生へと引き継がれている恒例の催しになっています。種には、2年生が書いた手紙も添えられていて、「どんな色が咲いたか教えてね」「またいっしょにあそぼうね」など心のこもったメッセージが。「せっかくもらったねです。なくさないようにおどうぐばこにいねいにしまっておきましょう」。先生のお話を聞いて、子どもたちは箱の下のほうに大切にしまっていました。このあと、自己紹介やじゃんけんゲームなど学年をまたいでの楽しい時間を過ごしました。教室には、小学校教員をめざす帝塚山大学教育学部の学生の姿もありました。先生の指導の様子を間近に見て、多くの学生は熱心にメモをとっていました。

夏になれば、色とりどりのアサガオが花を咲かせるでしょう。





和の心を学びます ～茶道にチャレンジ～

6月13日

この日、幼稚園にある和室に10人ほどの園児が次々と集まつてきました。子どもたちは藍色、茜色など柄の装飾が施された袱紗(ふくさ)を手にしています。入口の前まで来ると、みんな慣れた手つきで扇子を取り出しました。

この日は幼稚園のチャレンジプログラムのひとつ「茶道」が行われていました。「お部屋に入る前に正座ですね。そして扇子を前に置きましょう。扇子の向きはありますか」と和室の中から聞こえてくるのは裏千家流尾崎宗栄先生の凛とした声。一人ずつお行儀よく部屋に入ると、掛け軸と生け花の前に集まりました。掛け軸は茶席で重要な道具のひとつで、禅語である「日々是好日」の文字が書かれており、先生から子ども向けの分かりやすい解説が紹介されました。また、掛け軸のそばには、あじさいやほたるふくろひめはぎなど季節を意識して鮮やかに花が生けられています。

みんなが揃うと、お互いにお茶菓子をふるまいます。折敷(おりしき)に載せられたお茶菓子を落とさないように慎重に慎重にお友だちのところに運びます。この日のお茶菓子は「沢辺の虫(さわべのほたる)」。夏の小川を優雅に舞う虫をイメージしたとても上品な和菓子です。尾崎先生は、「さわべ」とはどういう意味がわかりますか」と、季節とからめたお茶菓子の意味合いを丁寧に説明しました。園児は一家の近くでほたるを見たよ」と話を広げ、楽しい茶席が続きます。「茶道」2年目の年長組の園児は楊枝を器用に使い、きれいに切って戴いていました。「戴いたあとはきちんと折敷をかえしますよ。折敷は置の縁に沿つてまっすぐに置けていますか」。一つひとつ所作が大事な茶道。厳しいながらもたたかい指導がなされます。「ひかせていただきます」のひとことで折敷が運ばれていきます。

チャレンジプログラムはこの「茶道」だけでなく「合奏」、「バレエ」、「サイエフス&クラフト」、「マット運動や鉄棒、平均台などに挑戦する「サー・キット」、「鬼ごっこやボール遊びなどを楽しむ「コーディネーション」などがあり、園児の興味・関心や身につけたいことに応じて選択します。1年間にわたってひとつと課題を取り組み、年度末にはその成果を保護者に披露します。今年もそれぞれのプログラムで努力を重ねた姿が見られることでしょう。

学期中頃からは、いよいよ子どもたちが自らお茶を点てます。こうした茶道を通じた所作や立ち居るまいは大人でもなかなかできかないもの。家庭での実践も限界があります。幼いうちから身にした日本文化やマナーにふれることはとても重要なことで大きくなつてからも役立つものです。



お茶菓子を戴いたあとは先生の点てたお茶を味わいます。「これもお互いにお友だちのところにもつていきます。まだ慣れていないお友だちはお茶が遙れて今にもこぼれてしまいそうでしたがなんとか持ちこたえました」「どうぞ」。差し出されたほうも「お相伴いたします」「お先に頂戴いたします」「お点前頂戴いたします」「感謝」とまわりの人への気遣いのことばも忘れずに伝え、お茶をひと口ずつ丁寧に戴いていました。先生は「さて、さきほどのお茶菓子はなんという名前ですか」とみんなは少し首をひねっていましたが、「さわべのほたる」とうれしそうに答えています。最後も「みんなの心を合わせましょう」と姿勢を正してご挨拶し、園児たちは席をあとにしました。

「季節によって、生ける花はもちろん、掛け軸も変えていきます。幼稚園で教わったことを家できちんと復習している園児もいますよ」と尾崎先生は話されました。

こうつう 交通ルールをしっかり守りましょう

（5月24日）

この日、園児を対象にした交通安全教室が行われ、奈良西警察署などから多くの方が来園されました。リズム室には、電車の踏切や横断歩道、信号など街の風景が再現されており、園児はお話を始まるのを待ちきれない様子です。



踏切の渡り方を真剣に聞く園児

まず、「いかない」「のらない」「おおごえをだす」など、子どもたちを危険や犯罪から守るキーワード「いかのおすし一人前」についてのお話がありました。また、横断歩道を渡る時の注意も「みーぎみて、ひだりみて、みーぎみて、後ろ見てー。手をあげてー」とリズムよく歌に合わせた説明がありました。安全に横断するため、車やバイクが来ていなければ十分に確認する大切さを楽しく教えていただきました。今度は、「街」を実際に歩いて横断歩道や踏切を渡ってみます。「信号が青になんでも車が来ていないかちゃんと右・左を見ましょう」「手をしっかり挙げて渡りましょう」と指導員の方が園児一人ひとりに優しく声をかけていました。

この後、園外に出るとパトカーが待機していました。ここまで間近で見られる機会はそうそうなく、園児たちは興奮している様子。実際にマイクを通した音声が流れると歓声があがりました。



横断歩道はしっかり手を挙げて渡ります

行動範囲が広がると子どもたちの興味関心の対象もさまざまになり、交通安全への意識をより一層高める必要があります。今日聞いたお話を正しく実践していきましょう。

たいけん ほいく じっし 体験保育を実施しました（6月10日）

6月10日、初夏の体験保育が行われました。20組を超える親子の参加があり、園への興味関心の高さがうかがえました。

この日は、子どもたちがリズム室で遊んだあと、教室へ移動。先生との歌遊び、絵本の読み聞かせのあと、年長組の園児と一緒に風車をつくりました。好きな色を塗ったり、シールをはったり、思い思いに工夫して作品を仕上げていました。最後は、園庭に出て、草花や生き物に触れながら、初夏の自然を満喫しました。

参加された方は通っている園児と実際に接したりすることで幼稚園の教育内容や学びを理解していたようです。

体験保育は7月29日（土）にも実施されます（要申込）。



教員による絵本の読み聞かせの様子



どんな風車ができるかな

いちごつみに出かけました

（4月27日）

年中・年長組の園児が幼稚園バスに乗っていちごつみに出かけました。

到着後、園児たちはいちごのつみ方の説明を一生懸命聞こうとしますが、ビニールハウスの中は、ようやく色づきはじめたいち



どのいちごにしようかな

は子どもたちの背よりも高く植えられており、園児はその間を縫うように一目散に走っていました。「真っ赤ないちご」「大きいのが食べたい」「甘いのはどれかな」と一粒ひと粒、丁寧に実り具合を確かめながら、自分の手で収穫する喜びをかみしみていました。ここで栽培されている品種は「あきひめ」。甘さたっぷりのいちごをおいしそうに味わっていました。



とれたてのいちごはひとくわ甘くておいしいです

後日、年少組もいちごつみに出かけました。2歳児教育のおともだちも幼稚園のプランターで育てているいちごつみを体験しました（写真左）。季節の感覚を大事にしながら日々を過ごしています。

たなばた 七夕きらきらゼリーづくりに挑戦（6月29日）

来週の七夕が待ち遠しいこの日、年長組のお部屋に大学現代生活学部食物栄養学科佐伯孝子准教授のゼミ生がやってきました。

「みんなは今日食べるゼリーが何からできているか知っていますか」。“先生役”的学生のお話が始まりました。「海藻からできている寒天をとかして、ジュースを入れて、冷やして固めるとできあがりです」。子どもたちは興味津々に聞いていました。「それでは好きな形をつくっていきましょう」。トレイにはオレンジ味やぶどう味のゼリーが用意されています。子どもたちは星型、ハート型など思い思いの形にくりぬいていきます。みかんやパイナップルが添えられたゼリー皿に取り分けると透明感あふれるきらきらの「七夕ゼリー」が完成。「大きな星が出てきた」「きらきらできれい」。子どもたちは満足そうにゼリーを味わっていました。



楽しいゼリーづくりの時間です

組み立てからプログラミングまで～4年ぶりにロボット教室を実施しました

6月17日

6月17日、大学学園前キャンパス18号館「TEZUKAYAMA CAFE」に地域の小学生14名とご家族の方々が集まりました。この日は、ロボットの組み立て、さらにセンサーを使った「順次処理」「反復処理」「分岐処理」などのプログラミングを学ぶ「ロボット教室」が催されました。教室は、中高理科部顧問である八尋博士教諭の指導のもと、大学教育学部の学生(今西まどかさん、上村天音さん)と中高理科部ロボット班のコラボレーションによる企画・運営。新型コロナウイルスの影響もあり、4年ぶりの開催となりました。

「みなさん、“ロボット”とはどういうものかわかりますか」。大学生が小学生に説明を開始しました。大学生は入学間もない1年生ですが、小学校教員を目指していることもあり、実践ながらの貴重な経験となります。いよいよ組み立ての段階になるとテーブルをまわるのは世界大会にも出場する理科部ロボット班に入部し、これから世界をめざす中学1年生です。

「ロボットは完成しましたか。それではまず四角を描くように走らせてみましょう」。組み上がったロボットをいよいよ走行さ



中学生と大学生が協力して小学生に指導します



大学生の進行により教室は順調に進みます



終了後の反省会の様子

せます。与えられたミッションを達成しようと、小学生は必死にプログラムを組み立てていきます。思ったとおりにロボットが動かず、試行錯誤している様子の小学生がいれば、学生や部員が寄り添い、丁寧に指導していました。

うまく走行すると拍手が起きました。

みごとタイム

トライアルで優勝

最後の課題は道路に見立てた黒い線上をたどるようにロボットを走行させます。このプログラムの組み立てはなかなか難しく、多くの小学生が苦戦していました。何度も何度もプログラムを修正し、ようやくロボットが脱線せず、コースを1周完走した瞬間、子どもたちだけでなく、ご家族、学生、部員は共に喜びあっていました。

いくつものミッションを果たした子どもたちは、プログラミングの技術だけでなく、最後までやり抜く大切さを学びました。同時に、支援にあたった学生や部員たちは挑戦する子どもたちを励まし、サポートすることを通して、他者とのかかわり方を知ることができました。

勉強合宿が行われました

3月29日-3月31日

大学×中高

大学東生駒キャンパスで高校2年生(当時)を対象とした「勉強合宿」が行われました。会場となったのは、普段学んでいる学園前キャンパスではなく、東生駒キャンパスにある「セミナーハウス三碓(みつがらす)」。普段は大学生がクラブ活動等で利用する施設



疲れも見せず一心不乱に勉強する生徒たち

ですが、この日は40人を超える女子生徒が集まりました。

「勉強合宿」と銘打った催しだけあって、9時の開会式直後から早速自学自習が始まりました。生徒自身があらかじめ立てた「学習計画表」に沿って勉強を進めるとはいえ、終了は夜の22時と強行スケジュールとなっています。参考書や問題集を広げた生徒が集まるスペースは、ページをめくる音だけが聞こえる静謐な空間となっていました。真横で友人が勉強に取り組む姿はさらなる刺激になっているようです。途中で分からないところが出ても、本合宿をとりまとめる厳格な教諭だけでなく、他の教員、先輩もスタンバイする万全なサポート体制が整っています。

2日目は6時に起床後、早速「朝学習」が組まれており、一層ハードな1日に。仮眠室も用意されているのでそこで休息をとることもできますが、昼食時には「眠いけどがんばる」と自らを奮いたたせている生徒も見られました。

この勉強合宿ですが、しばらくは新型コロナウイルスのため、開催を見合わせていました。今回、指導役として参加した卒業生の中には「合宿ができるとでもうらやましい」との声も。普段は訪れることが少ない自然豊かな東生駒キャンパスで行われた勉強合宿。参加後のアンケートでは、「静かな環境で学習できた」「同級生と一緒にがんばれた」「集中力が身についた」「メリハリをつけた勉強ができた」など高い満足度を示す意見が寄せられました。



わからないことがあってもすぐに先生や先輩に質問できます



桜が咲き始めた中庭で昼食休憩

「つながる」「ひろがる」教育連携

大学×中高



みごとタイム

トライアルで優勝

トライアル

パンづくりを体験

3月7日

大学×幼稚園

大学現代生活学部食物栄養学科の学生と幼稚園年中組(当時)によるパン作り体験が大学の調理実習室で行われました。はさみで切ったり、ナイフで模様をつけたり、大学生に教えてもらいながら、うさぎ、ねこ、かめなど、一人ひとり好きな形にパン生地を成形していきます。形が整うと、バターを塗って焼いてもらいます。調理室の奥には大きなオーブンがあり、早くもいい香りを漂わせていました。

幼稚園に戻って給食の準備をしていると、学生が大きな箱を持ってやってきました。箱をのぞくとさきほどのパンがいい色に焼き上がってきました。自分でつくったパンが見事に完成し、年中組のみんなは大喜びでした。



どんな形のパンをつくろうかな



大学生による交通安全教室

5月29日

大学×小学校

(※詳しくは小学校のページをご覧ください。)



ゼリーブル久りを体験

6月29日

大学×幼稚園

(※詳しくは幼稚園のページをご覧ください。)



食育講座を実施

6月7日・6月8日

大学×小学校 大学×幼稚園

国家資格である管理栄養士の合格をめざしている大学現代生活学部食物栄養学科の学生が小学校や幼稚園を訪問、食育に関する特別授業を行いました。中には栄養教諭の教員免許の取得をめざしている学生もあり、実践しながらの「授業」となりました。

小学校では、5年生を対象に朝食の必要性について授業を実施。朝食の摂取と学力調査や体力調査の関係を示したグラフを示し、児童への質問を織り混ぜながら、双方向のやりとりを意識した授業運営がなされていました。食育の授業はこのあとすべての学年で順次行われること。学生は「同じテーマでも、低学年と高学年で同じように理解ができないので、学年に応じた内容を心がけている」と話していました。

幼稚園でも、この日は「わかめ」についてのお話がありました。「わかめを食べると歯や骨が強くなる」と、この日のために教材としてつくった長い長い「わかめ」を見た園児たちは献立のわかめご飯をもりもり食べていました。



グラフを読み解いて「朝食」の大切さを学びます



朝食のメニューについて話を聞く児童



「わかめはこんなに長いですよ」



「わかめは歯と骨を強くします」

1年生と年長組の交流会を実施

6月27日

小学校×幼稚園

6月27日、小学校体育館で1年生と幼稚園年長組の交流会を実施しました。



最初は少し緊張ぎみだった園児も「じゃんぱらじゃんけん」など体を使ったゲームが始まると、満面の笑みを見せっていました。また、1年生から園児に手作りのお守りがプレゼントされると嬉しそうに受け取っていました。最後に園児たちはもらったばかりのお守りを携え、元気よく歌を歌いました。

親子サイエンス教室を開催

7月1日

中高×幼稚園

中高の植間聰教諭による「親子サイエンス教室」を開催しました。いつまでも浮かぶシャボン玉、平面やモールで作られた立体的なシャボン玉など、手品のような不思議な現象に園児は興味津々でした。



同窓会だより (大学)

令和4年12月4日

第42回東日本支部同窓会「晴れやかに3年ぶりの再会!!」

令和4年12月4日(日)に東京お台場のヒルトン東京お台場にて「第42回帝塚山大学東日本支部同窓会」をコロナ禍以降、3年ぶりに開催致しました。コロナ第8波の予兆が感じられるという社会情勢を勘案しつつも、ホテル側の万全な感染対策への協力のもと、開催する事が出来ました。参加人数は学校側から飛世昭裕副学長をはじめ、役員を含めて16名というコロナ禍前の半数程の規模でしたが、関西から来て頂いた会員の方もいらして、当日のお台場の天候と同様に大変晴れやかな会となりました。

自己紹介では各自、コロナ禍での生活ぶりや今までの体験等をお話し頂きましたが、皆さん非常に表情が素敵で心から久しぶりの同窓生との交流を楽しんでおられるのが伝わってきました。自己紹介の後に「帝塚山大学創立50周年の記念



のDVD」を全員で視聴しましたが、懐かしい学園の風景や先生方の姿を見て日常を忘れ、青春時代に思いを馳せた方も多くい

たのではないかと思ひます。同窓会後のオプション企画のお台場のクルージングも殆どの方に御参加頂き、船内では夕暮れ時のお台場の風景を楽しみながら



思い出話に花が咲き、下船後は名残が尽きませんが、再会を約束しての笑顔でのお開きとなりました。

最後に今回、師走の忙しい時期の中、御参加頂いた同窓生の皆様、本当に有難うございました。学校側からの御参加の飛世副学長には、本当に忙しい中御参加頂き、ご挨拶も賜りました事を心より感謝申し上げます。

今年の5月8日に新型コロナも「2類相当」から季節性インフルエンザと同じく「5類」に移行する決定が政府よりなされていますが、コロナウイルスは感染力も強くまだ予断を許しません。1日も早くコロナが収束し、同窓生の交流の場が戻って来る事を願って止みません。

東日本支部 支部長 25回卒(教養) 小西 良和

お知らせ ···

帝塚山学園創立80周年記念募金 ご芳名一覧

帝塚山学園創立80周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、ご寄付を頂戴した皆様への御礼の意を込めましてここにご芳名を掲載させていただきます。なお、ご芳名につきましては、令和5年3月以降4月末日までにご寄付を頂戴した法人・団体の方で、令和5年6月末までに連絡票にてご芳名の公表の意思をご確認させていただいた方のみ、五十音順で掲載いたしております。

株式会社アド近鉄
近畿日本鉄道株式会社
近鉄グループホールディングス株式会社
株式会社近鉄百貨店
近鉄ファシリティーズ株式会社
奈良交通株式会社
ほか匿名希望1法人



本誌第14号が「ココロコミュ」に掲載されました

本誌第14号が「ココロコミュ」(<https://cocorocom.com>)に掲載されました。同サイトは、生徒と「子どもに関わるあらゆる人」のための情報発信メディア。生徒、保護者、先生、受験生に向けて、学校や学生生活のリアルな情報が掲載されています。第14号には高校写真部が撮影したキャンパス風景の写真が数多く表紙に載りました。部員が撮影した個々の写真も同サイトの「生徒VOICE」のコーナーに投稿されています。



ニッケン文具株式会社様より文具を ご寄付いただきました

5月11日、ニッケン文具株式会社様より文具をご寄付いただきました。今回、ご寄付いただいたのは、セロハンテープ8000巻、段ボール20箱分に相当します。中学校高等学校はじめ、学園内各学校園にてありがたく活用させていただきます。ニッケン文具株式会社 中田敏夫部長執行役員はじめ社員の皆様に厚く御礼申し上げます。



ニッケン文具株式会社 中田敏夫部長執行役員 寄贈いただいたセロハンテープ

学園前アートフェスタ2023 ～地元作家展と小さな音楽祭～

主催:学園前街育プロジェクト実行委員会

2023年11月18日(土)～11月25日(土)

近鉄「学園前」駅エリア一帯で開催

詳しくは学園前アートフェスタ公式ホームページをご覧ください。

• 同窓会 •

同窓会だより
(中高)令和5年4月8日
ギター・マンドリン部同窓会

定期演奏会の終演後に懇親会を開催しました。演奏者、見守ったOB・OGも安堵して和やかな空気の中、時間を共に出来ました。当クラブ出身の卒業生は700人あまり。2025年には創部60周年記念演奏会を開催する予定です。



令和5年4月25日 7期生同窓会

卒業より30回近く開催してきましたが1年ぶりの開催となり、昭和28年(1953年)の卒業後、70年を迎えることになりました。体の調子が悪い人や外出できる人が少なくなり9名の出席となりました。出席者は会ったとたんに入学当たりにかえり話がはずみました。昔は恩師を招いていましたが教えていただいた先生がおられない。

元気でおれば来年も開催したいと話しながら別れました。

令和5年4月9日 27期生同窓会

大阪ユニバーサルホテルポートにて27期生第11回同窓会を開催しました。2年毎の予定でしたが、コロナ禍の影響で延期。前回より10名少ない35名での開催でしたが、12時の開宴から15時迄、近況報告や在校時の写真を見ながら思い出話で盛り上がり、あつと言う間の3時間でした。最後に、案内のハガキ代や、印刷の手間等考え27期生同窓会グループライン提案をしたところ70歳近い年齢にも関わらず全員グループラインに登録でき、現在42名のラインでつながっています。27期生同窓生の皆さんよろしくご参加ください。

2023年度
総会・懇親会の
ご案内

日時: 2023年9月3日 (日)
11時00分~15時00分
場所: シェラトン都ホテル大阪

令和5年2月13日
令和4年度優秀クラブを表彰

同窓会は2月13日、令和4年度中に全国大会に出場した中高優秀クラブ8部に対して、表彰状と副賞を贈呈しました。

優秀クラブ表彰は今年度で21回目、本来ならば池辺政人校長先生(当時)をはじめ顧問の先生方らご臨席のもと、同窓会より栄誉を称え優秀クラブの生徒代表に表彰状と副賞の奨励金を直接お渡しするものであります。本年度も昨年度同様、新型コロナ感染防止のため、一堂に集まらず校長先生、顧問の先生から各部生徒代表に伝達いただくことになりました。

表彰クラブの概要は次の通りです。(敬称略)(学年・クラスは当時のもの)

■高校数学研究部 〈顧問〉西川 和宏

- ・第22回日本情報オリンピック
〈代表生徒〉西山 遼 (2-C)

■中学卓球部 〈顧問〉堅田 昌義

- ・2022年全日本卓球選手権大会(カデットの部)
〈代表生徒〉米田 直弘 (2-2)

■高校放送部 〈顧問〉平澤 悟

- ・第46回全国高等学校総合文化祭
・第69回NHK杯全国高校放送コンテスト
〈代表生徒〉辻上 真生 (2-E)

■中学放送部 〈顧問〉平澤 悟

- ・第39回NHK杯全国中学校放送コンテスト
〈代表生徒〉福村 衣玖子 (2-8)

■中学英語部 〈顧問〉川崎 貴子

- ・高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会
〈代表生徒〉井上 知優 (3-3)

■高校ダンス部 〈顧問〉田中 明希子

- ・第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)
〈代表生徒〉清水 嘉乃 (2-I)

■高校理科部ロボット班 〈顧問〉八尋 博士/仲島 浩紀

- ・FLL(ファーストレゴリーグ)
・WRO(ワールドロボットオリンピアード)
〈代表生徒〉野間 怜生 (2-B)

■高校テニス部 〈顧問〉秋田 友加

- ・令和4年度全国高等学校総合体育大会テニス競技大会
〈代表生徒〉岡田 凜 (1-E) シングルス

以上8部





「**T-time**」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。